

名古屋大学文系大学院開放科目

*Nagoya University - Schools of Arts, Humanities, and Social Sciences
Open Registration Courses (ORC)*

文系大学院開放科目 履修登録方法

文系大学院開放科目の履修登録は、以下の要領で行ってください。

I. 前期 (通年科目含む)・後期

- ①履修登録期間： 所属部局の履修登録期間中に行ってください。
- ②履修登録方法：「文系大学院開放科目 受講申請票」に所定の事項を記入のうえ、指導教員・授業担当教員の承認を得た後、所属研究科の履修登録票に添付して提出してください。
- ③受講調整： 授業担当教員の承認が得られた時点で履修が許可されたものとし、ます。

II. 集中講義

- ①履修登録期間： 集中講義開講初日の1週間前が受講申請の提出期限です。
例) 8月4日(月)～8月8日(金)の開講の場合
→7月28日(月)が提出期限
- ②履修登録方法：「文系大学院開放科目 受講申請票【集中講義用】」に所定の事項を記入のうえ、指導教員の承認を得た後、文系教務課学生支援グループ窓口へ提出してください。
- ③受講調整： 受講希望者が多数になった場合は、受講調整を行います。
調整の結果、不許可となった学生に対してのみ講義開始日の2日前までに受講申請票に記載の受講調整結果連絡先にお知らせします。
なお、調整は原則として開講部局の学生を優先し、その他の学生は、無作為に抽選します。

III. 成績認定等

- ①修了要件への算入： 所属部局における他研究科科目の取扱に準ずるものとします。
- ②成績確認： 所属部局において、通常科目とともに発表します。

Nagoya University – Schools of Arts, Humanities, and Social Sciences
Class Registration Procedure for Open Registration Courses (ORC)

Please follow the below procedure for registering ORC.

I. 1st Semester & 2nd Semester

① **Registration Period:**

Follow the registration dates of your affiliated school.

② **How to Add ORC to Your Academic Schedule :**

Fill out the ORC Registry Application. After your class schedule is approved by your academic advisor and class instructor(s), you must turn the application in at the office of your affiliated school together with the class registration form.

③ **Registration Overrides:**

When courses reach their set enrollment capacity, those courses may become unavailable to register. However, you may contact the course instructor to request that you will be force-added to the course. If your request is granted, the instructor will sign on your ORC Registry Application.

II. Intensive Courses

① **Registration Period:**

Submission deadline of ORC Registry Application is 7 days before the first day of Intensive Course Session.

ex) Session from 8/4/2008 (Mon) ~ 8/8/2008 (Fri)



Submission Deadline is on 7/28/2008 (Mon)

② **How to Add ORC to Your Academic Schedule:**

Fill out the ORC Registry Application. After your class schedule is approved by your academic advisor , you must turn the application in at the office of Educational Affairs Division Schools of Arts , Humanities , and Social science.

③ **Registration Overrides:**

When courses exceed their set enrollment capacity, departments may select their participating students for those exceeded courses. If your registration request was not accepted due to the selection, you will be notified by the department at least 2 days before the session begins. Departments will give priority to their affiliating students, and after that other students will be selected randomly.

III. Credit Calculating System · Grading

① **Approval of ORC credit:**

Please regard the credit calculating system of your affiliated school to be accepted as elective course credit.

② **Grading:**

Your ORC grade will be released from your affiliated school together with other regular courses' grades.

文系大学院開放科目 受講申請票
NU Schools of Arts, Humanities, and Social Sciences
Open Registration Courses (ORC) Registry Application

前 1st Semester
平成 年度 期 指導教員 印
Academic Advisor sign
後 2nd Semester

研究科 Affiliation		前期課程 Master's Program 学専攻 年 Major Grade 後期課程 Doctoral Program	
学生番号 Student ID number		フリガナ Furigana in Katakana	
		氏名 Name	
開講研究科 School	期間 Session Period	科目名 Course	担当教員名 Course Instructor
受講調整結果連絡先 Contact Information			
電話番号(携帯) Phone(Cellphone)		E-mail	

文系大学院開放科目一覧

開講研究科	期	曜日	時限	初回講義日	教室	授業科目名	他研究科受入可能人数	履修条件	備考
文学	前	火	5	4月15日	237講義室	多元文化論 (日本語文化入門(1))	10名以内		留学生を優先する
	後	火	5	10月7日	237講義室	多元文化論 (日本語文化入門(2))	10名以内		留学生を優先する
	前	金	4	4月18日	総合305	文明基礎論 (ギリシア語文法(A))	5名		
	後	金	4	10月3日	総合305	文明基礎論 (ギリシア語文法(B))	5名		
	後	木	3	4月17日	127講義室	文化財学 (文化財学の諸問題A)	制限なし	シラバスを参照のこと	
	後	金	4	10月3日	教育2講	文化財学 (文化財学の諸問題B)	制限なし	シラバスを参照のこと	
	前	金	5	4月18日	日本文学リテラボ	文芸批評論 (日本の文芸論(1))	若干名		
	後	金	5	10月3日	日本文学リテラボ	文芸批評論 (日本の文芸論(2))	若干名		
教育発達科学	前	木	6	4月17日	G演	高等教育マネジメント講義	若干名	教育発達科学研究科の 学生を優先。履修制限あり	
	前	火	5	4月15日	総412	生涯学習開発講義	〃	〃	
	前	木	2	4月17日	総307	計量心理学研究 I	〃	〃	
	後	月	3	10月6日	総306	計量心理学研究 II	〃	〃	
法学	前	金	1	4月18日	IRB 408	研究方法論 I Academci Writing 1 (Legal Research and Writing I)	若干名		英語による講義
	前	月	3~5 集中	4月14日	4月14日 13時打合せ	近代日本政治史特殊研究 (史料解釈の方法)	〃		月1回
	通	火	4	4月15日	文総 407	比較政治体制史研究 I (20世紀ヨーロッパにおける民主主義)	〃		
	通	木	3,4	4月17日	ゼミ棟 23	現代政治理論研究 (現代政治学の諸理論)	〃		隔週
	前	金	3	4月18日	法学部905演	比較法哲学専門研究 I (法とその担い手たち The Law and its Personnel)	〃		英語による講義
	後	金	3	10月3日	未定 (後日掲示します)	特別講義演習 (途上国の法曹・企業倫理 Legal and Business Ethics in Developing Countries)	〃		英語による講義
経済	前	木	3	4月17日	第3会議室	課題設定型講義 (地域金融システム)	若干名		
	前	火	3	4月15日	第3会議室	課題設定型講義 (地方財政)	若干名		
	後	集中	-	未定 (後日掲示 します)	未定 (後日掲示します)	課題設定型講義 (TPSに基づく全体最適経営システム の再構築)	若干名		
	後	木	6	10月2日	演習室5	課題設定型講義 (エネルギー・環境の経済分析)	若干名		
国際言語文化	前	水	3	4月16日	国言棟2階 B演習室	現代ジャーナリズム論a	若干名	特になし	
	後	水	3	10月1日	国言棟2階 B演習室	現代ジャーナリズム論b	〃	「現代ジャーナリズム論a」を 履修することが望ましい	
	前	火	4	4月15日	国言棟2階 B演習室	新聞現場論a	〃		
	後	火	4	10月7日	国言棟2階 B演習室	新聞現場論b	〃		
	前	木	2	4月17日	ラウンジ 国言棟1階	メディアテクノロジー論	〃		
	後	水	4	10月1日	ラウンジ 国言棟1階	デジタルメディア論	〃		
	前	水	5	4月16日	ラウンジ 国言棟1階	放送メディア史論	〃		
	前	火	6	4月15日	国言棟2階 B演習室	テレビ報道論	〃		
	前	木	4	4月17日	国言棟2階 B演習室	広告戦略論a	〃	日本語の理解力、広告へ の興味	
	後	木	4	10月2日	国言棟2階 B演習室	広告戦略論b	〃	日本語の理解力、広告へ の興味	
	前	月	6	4月14日	国言棟2階 B演習室	民間放送事業論	〃	特になし	

文学研究科

Graduate School of Letters

講義名：多元文化論 (日本語文化入門(1))

[講義基本情報]

教員:	齋藤 文俊
その他の教員:	
科目種別:	講義
開講時期:	前期
対象年次:	MC
開講時限:	火曜日5時限
単位数:	2
教室:	237講義室

[講義概要]

講義概要	<p>日本語文化のいろいろな問題、とくに前期は日本語の文字や表記に関する下記のような問題について、出席者といっしょに考えていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 漢字はどのくらいあるの？ 2. じゃあ、漢字はどのくらいおぼえればよいの？ 3. 漢字の長所と短所は？ 4. ひらがな・カタカナはどのようにしてできたの？ 5. 漢字を廃止しようなんて考えた人はいないの？ 6. 小説・マンガなどでは、漢字・ひらがな・カタカナ・ROMOJIをどのように使用しているの？ <p>一方的な講義だけではなく、クラス討論、レポート、グループ発表のさまざまな形式をとるので、積極的に講義に参加してほしい。</p>
到達目標	みなさんは、友だちから「日本語を覚えたいんだけど、文字をいくつ覚えればいいの？」と質問をされたら、どのように答えますか？ そんな日本語に関する素朴な疑問に答えられるようになってください。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料	講義中に紹介していく。
成績評価方法	出席(30%)、授業への貢献度(30%)、レポート(40%)
履修条件	このクラスは基本的に留学生むけであり、講義もやさしい日本語でおこなう。受講者は日本語能力試験2級合格ないしは、それと同等の日本語能力を有するものとする。また、もちろん日本人学生の受講も歓迎する。 (なるべく前後期連続して受講することが望まれる。)
その他の注意	<p>【受講生の自宅学習】 授業中、積極的に発言するために、日頃から、目にする・耳にする日本語に注意していきましょう。マンガ・広告・看板など、あらゆるところに面白い表現があるはずです。</p> <p>【備考】 開放科目・NUPACE科目</p> <p>【連絡方法】 メールなどで連絡があれば随時対応する。</p>

講義名：多元文化論 (日本語文化入門(2))

[講義基本情報]

教員:	齋藤 文俊
その他の教員:	
科目種別:	講義
開講時期:	後期
対象年次:	MC
開講時限:	火曜日5時限
単位数:	2
教室:	237講義室

[講義概要]

講義概要	<p>日本語文化のいろいろな問題、とくに後期は日本語の語彙(単語)に関する下記のような問題について、出席者といっしょに考えていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「昨日頭を切ってきたよ」「昨日頭をカットしてきたよ」は言えるのに、「昨日頭を切断してきたよ」だとぶきみになってしまうのはなぜ? 2. 「今日は11月3日、祝日でちょうど日曜日にあたります」の中の5個の「日」、なんでみんな読み方が違うの? 3. 「見上げてごらん、星がギラギラまたたいているよ」はなぜロマンチックじゃないの? <p>一方的な講義だけではなく、クラス討論、レポート、グループ発表のさまざまな形式をとるので、積極的に講義に参加してほしい。</p>
到達目標	みなさんは、友だちから「宿屋と旅館とホテル、どちらがうの?」と質問をされたら、どのように答えますか? そんな日本語に関する素朴な疑問に答えられるようになってください。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料	講義中に紹介していく。
成績評価方法	出席(30%)、授業への貢献度(30%)、レポート(40%)
履修条件	このクラスは基本的に留学生むけであり、講義もやさしい日本語でおこなう。受講者は日本語能力試験2級合格ないしは、それと同等の日本語能力を有するものとする。また、もちろん日本人学生の受講も歓迎する。(なるべく前後期連続して受講することが望まれる。)
その他の注意	<p>【受講生の自宅学習】 授業中、積極的に発言するために、日頃から、目にする・耳にする日本語に注意しててください。マンガ・広告・看板など、あらゆるところに面白い表現があるはずです。</p> <p>【備考】 開放科目・NUPAGE科目</p> <p>【連絡方法】 オフィスアワーは、火曜日11:30~12:30だが、メールなどで連絡があれば随時対応する。</p>

講義名： 文明基礎論 (ギリシア語文法(A))

[講義基本情報]

教員:	吉武 純夫
その他の教員:	
科目種別:	演習
開講時期:	前期
対象年次:	MC
開講時限:	金曜日4時限
単位数:	2
教室:	総合305

[講義概要]

講義概要	毎回標準的に、教科書の3課を進む。予習していることを前提に、分からなかった点の質問、補説と和訳問題の答え合せが授業の中心となる。併せて、余裕があれば、適宜簡単な読み物も読む。分からないことは必ず質問するように。
到達目標	古典期のギリシア語を読むための文法を初歩から学ぶ。前期(A)・後期(B)をあわせて『ギリシア語入門』の2/3ほど(悲劇『オイディプス王の梗概』が読める程度)まで進む。
教科書	田中・松平著、『ギリシア語入門』(岩波全書)。
参考書・参考資料	Liddel & Scott編、An Intermediate Greek-English Lexicon (Oxford UP). Moorwood & Taylor編、The Pocket Oxford Classical Greek Dictionary(Oxford UP).
成績評価方法	平常点(3割)と定期試験(7割)。基本的な変化形を覚えたかどうか、また、教科書にでてきたギリシア語文を正確に読めるようになっているかどうかをテストする。
履修条件	ギリシア語を覚えるために努力するという明確な意志を持っていることが必要である。
その他の注意	【受講生の自宅学習】 教科書の進む予定の課を、自分で読み進めて予習する。予習のためのヒントは前もって与えるが、教科書に書いてある説明を読み、変化形を暗記し、和訳問題を考えるのは自習において行ってもらおう。質問を用意してこくことも大切である。 学び終えたことを絶えず振り返ることを忘れないようにしてください。 【連絡方法】 電子メール: archaios@lit.nagoya-u.ac.jp

講義名： 文明基礎論 (ギリシア語文法(B))

[講義基本情報]

教員:	吉武 純夫
その他の教員:	
科目種別:	演習
開講時期:	後期
対象年次:	MC
開講時限:	金曜日4時限
単位数:	2
教室:	総合305

[講義概要]

講義概要	毎回標準的に、教科書の3課を進む。予習していることを前提に、分からなかった点の質問、補説と和訳問題の答え合せが授業の中心となる。併せて、余裕があれば、適宜簡単な読み物も読む。分からないことは必ず質問するように。
到達目標	古典期のギリシア語を読むための文法を初歩から学ぶ。前期(A)・後期(B)をあわせて『ギリシア語入門』の2/3ほど(悲劇『オイディプス王の梗概』が読める程度)まで進む。
教科書	田中・松平著、『ギリシア語入門』(岩波全書)。
参考書・参考資料	Liddel & Scott編、An Intermediate Greek-English Lexicon (Oxford UP). Moorwood & Taylor編、The Pocket Oxford Classical Greek Dictionary(Oxford UP).
成績評価方法	平常点(3割)と定期試験(7割)。基本的な変化形を覚えたかどうか、また、教科書にでてきたギリシア語文を正確に読めるようになっているかどうかをテストする。
履修条件	ギリシア語を覚えるために努力するという明確な意志を持っていることが必要である。
その他の注意	【受講生の自宅学習】 教科書の進む予定の課を、自分で読み進めて予習する。予習のためのヒントは前もって与えるが、教科書に書いてある説明を読み、変化形を暗記し、和訳問題を考えるのは自習において行ってもらおう。質問を用意してくることも大切である。 学び終えたことを絶えず振り返ることを忘れないようにしてください。 【連絡方法】 電子メール: archaios@lit.nagoya-u.ac.jp

講義名：文化財学 (文化財学の諸問題A)

[講義基本情報]

教員:	山本 直人
その他の教員:	
科目種別:	講義
開講時期:	後期
対象年次:	MC
開講時限:	木曜日3時限
単位数:	2
教室:	127講義室

[講義概要]

講義概要	博物館経営のあり方や博物館における情報について説明していきます。
到達目標	学芸員の仕事をすすめていくうえでの知識や技術を習得することをめざします。
教科書	とくにありません。
参考書・参考資料	加藤有次ほか編、『新版博物館学講座』、雄山閣出版。
成績評価方法	筆記試験(100%)。 ただし、授業を妨害した学生の受験はみとめません。 授業中に配布した資料や自筆ノートのもちこみはみとめますが、それらのコピーのもちこみはみとめません。 なお、病気など特別な事情で受験できなかった学生には、レポートで成績評価をおこなう場合もあります。
履修条件	授業の妨げになるような行為をしないことが履修の条件になります。 具体的には、私語やEメール、飲食、大幅な遅刻などです。 警告を2回うけた学生や悪質な妨害をした学生については、それ以降の受講と筆記試験の受験をみとめません。
その他の注意	【受講生の自宅学習】 上記の参考書をよんでおいてください。 休日や冬季休業中に博物館を見学することを課題として課します。 【連絡方法】オフィスアワーは木曜5限です。

講義名：文化財学 (文化財学の諸問題B)

[講義基本情報]

教員:	梶原 義実
その他の教員:	
科目種別:	講義
開講時期:	後期
対象年次:	MC
開講時限:	金曜日4時限
単位数:	2
教室:	教育2講

[講義概要]

講義概要	<p>教員による講義を中心に授業を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館資料とは ・博物館資料の製作・修復 ・博物館資料の展示 ・博物館の普及活動 ・実例紹介 <p>それとともに、授業内に適宜、博物館や文化財についてのトピックをとりあげ、受講者各自の考えを小レポートとして提出してもらう。</p>
到達目標	博物館資料の種類やその取り扱いなどについての基礎的な知識を習得し、文化財の保存・活用のあり方を考えることを目的とする。
教科書	とくになし。
参考書・参考資料	加藤有次他編『新版博物館学講座』雄山閣
成績評価方法	<p>出席点(30%) 授業内の小レポート(30%) 筆記試験(40%) 出席が半数に満たない学生は、評価の対象としない。</p>
履修条件	本科目は学芸員資格に関する科目ではないので注意すること。学芸員資格に関する科目として受講を希望する学生は、学部科目「博物館資料論」として受講すること。
その他の注意	<p>【受講生の自宅学習】 特になし</p> <p>【連絡方法】 オフィスアワー以外でも、在室中はいつでも対応しますし、事前に連絡があればより確実です。連絡先は授業中に伝えます。</p>

講義名： 文芸批評論 (日本の文芸論(1))

[講義基本情報]

教員:	高橋 亨
その他の教員:	
科目種別:	演習
開講時期:	前期
対象年次:	MC
開講時限:	金曜日5時限
単位数:	2
教室:	日本文学リテラボ

[講義概要]

講義概要	<p>日本の文芸論としては、和歌や連歌また俳諧に関する歌論・連歌論・俳論、物語や説話についての物語論、漢詩文や近代詩についての詩論、謡曲・狂言・浄瑠璃・歌舞伎などの演劇論、近代の小説を中心とした小説論や評論がある。</p> <p>それぞれの参加者の研究分野に基づいて、こうした文芸論をふまえた発表を行い、それに基づいた議論を行う。</p> <p>発表者はあらかじめ報告資料を作成し、参加者による討議を行う。発表の内容やプレゼンテーションの方法についての検討とともに、質問のしかたや、文芸論としての一般的・理論的な意義についての議論を重視する。</p>
到達目標	古代から近代にわたる代表的な文芸論について、その特性を参加者の発表をもとにして討議する。
教科書	発表者による討議・報告資料を用いる。
参考書・参考資料	発表内容に即した参考文献を、あらかじめ予告する。
成績評価方法	期末レポートにより50%、通常の発表と討議における平常点が50%として評価する。
履修条件	日本文学の専門科目として開講するので、共通科目としての受け入れは若干名とする。
その他の注意	<p>【受講生の自宅学習】</p> <p>発表者は、あらかじめ報告資料を準備し、そのための学習をする。</p> <p>他の受講者は、予告された発表内容に関わる学習をして、討議に加わる準備を行う。</p> <p>【連絡方法】</p> <p>原則として授業の前後とするが、必要な場合には、E-mail: t-taka@lit.nagoya-u.ac.jp</p>

講義名： 文芸批評論 (日本の文芸論(2))

[講義基本情報]

教員:	高橋 亨
その他の教員:	
科目種別:	演習
開講時期:	後期
対象年次:	MC
開講時限:	金曜日5時限
単位数:	2
教室:	日本文学リテラボ

[講義概要]

講義概要	<p>日本の文芸論としては、和歌や連歌また俳諧に関する歌論・連歌論・俳論、物語や説話についての物語論、漢詩文や近代詩についての詩論、謡曲・狂言・浄瑠璃・歌舞伎などの演劇論、近代の小説を中心とした小説論や評論がある。</p> <p>それぞれの参加者の研究分野に基づいて、こうした文芸論をふまえた発表を行い、それに基づいた議論を行う。</p> <p>発表者はあらかじめ報告資料を作成し、参加者による討議を行う。発表の内容やプレゼンテーションの方法についての検討とともに、質問のしかたや、文芸論としての一般的・理論的な意義についての議論を重視する。</p>
到達目標	古代から近代にわたる代表的な文芸論について、その特性を参加者の発表をもとにして討議する。
教科書	発表者による討議・報告資料を用いる。
参考書・参考資料	発表内容に即した参考文献を、あらかじめ予告する。
成績評価方法	期末レポートにより50%、通常の発表と討議における平常点が50%として評価する。
履修条件	日本文学の専門科目として開講するので、共通科目としての受け入れは若干名とする。
その他の注意	<p>【受講生の自宅学習】</p> <p>発表者は、あらかじめ報告資料を準備し、そのための学習をする。</p> <p>他の受講者は、予告された発表内容に関わる学習をして、討議に加わる準備を行う。</p> <p>【連絡方法】</p> <p>原則として授業の前後とするが、必要な場合には、E-mail: t-taka@lit.nagoya-u.ac.jp</p>

教育発達科学
研究科

*Graduate School of Education
and Human Development*

講義名：高等教育マネジメント講義

[講義基本情報]

教員:	伊藤 彰浩
その他の教員:	
科目種別:	講義
開講時期:	前期
対象年次:	
開講時限:	木曜日6時限
単位数:	2
教室:	G演

[講義概要]

講義概要	<p>高等教育マネジメント・コースの「イントロ」的講義である。 授業でとりあげる予定のトピックは以下のとおり。 (1)高等教育の概念 (2)歴史と政策(世界と日本) (3)ユニバーサル化にかかわる諸問題 (4)高等教育マネジメントの課題 各トピックに関連した文献・資料を配付・紹介するので、その内容を踏まえて授業を進める。初回授業時により詳細なシラバスを配布する。</p>
到達目標	<p>受講者が高等教育にかかわる諸問題を概観し、それらに関する基礎知識を身につけることを目的とする。</p>
教科書	<p>適宜、配布ないしは指示する。</p>
参考書・参考資料	<p>適宜、紹介する。</p>
成績評価方法	<p>出席、授業への参加度(報告・討議等)、および期末レポートにより評価する。</p>
履修条件	
その他の注意	

講義名：生涯学習開発講義

[講義基本情報]

教員:	寺田 盛紀
その他の教員:	
科目種別:	講義
開講時期:	前期
対象年次:	
開講時限:	火曜日5時限
単位数:	2
教室:	総412

[講義概要]

講義概要	生涯学習の問題をキャリア形成の視点から論ずる。 内容として、 1. 現代の若者のキャリア形成の現象 2. キャリア発達の理論 3. 職業観のメカニズム 4. 職業人のキャリア形成メカニズム 5. 職業能力開発の仕組み について取り上げ、講述・輪読を行う。
到達目標	研究的知識を養う。
教科書	
参考書・参考資料	
成績評価方法	出席、レポート等から判定する。
履修条件	
その他の注意	

講義名：計量心理学研究 I

[講義基本情報]

教員:	野口 裕之
その他の教員:	
科目種別:	講義
開講時期:	前期
対象年次:	
開講時限:	木曜日2時限
単位数:	
教室:	

[講義概要]

講義概要	教育発達科学研究科の教務グループで確認してください
到達目標	
教科書	
参考書・参考資料	
成績評価方法	
履修条件	
その他の注意	

講義名：計量心理学研究Ⅱ

[講義基本情報]

教員:	石井 秀宗
その他の教員:	
科目種別:	講義
開講時期:	後期
対象年次:	
開講時限:	月曜日3時限
単位数:	2
教室:	総306

[講義概要]

講義概要	多変量解析の基本的な考え方を学習するために必要な線形代数, 射影, 最小2乗法, 回転, 共分散構造等の考え方について解説する.
到達目標	多変量解析の基本的な考え方を習得し, 複雑な分析モデルでも直感的な理解ができるようになることを目的とする.
教科書	
参考書・参考資料	南風原朝和 心理統計学の基礎—統合的理解のために 有斐閣アルマ 2002 柳井晴夫 多変量データ解析法—理論と応用 朝倉書店 1994
成績評価方法	報告や授業への参加度による平常点.
履修条件	数式や行列, ベクトル表現が出てくることに耐えられること. また, 因子分析及び回帰分析の基礎は学習をしていることを前提とする.
その他の注意	多変量解析法の具体例や, 統計ソフトの利用法を解説する講義ではない.

法学研究科

Graduate School of Law

研究方法論 I

講義名: Academci Writing 1 (Legal Research and Writing I)

[講義基本情報]

教員:	Yoshiharu MATSUURA
その他の教員:	
科目種別:	Lecture
開講時期:	1st
対象年次:	M1&M2
開講時限:	Fri 1
単位数:	2
教室:	IRB 408

[講義概要]

講義概要	This course introduces the participants to the first phase of academic writing. The first phase covers such topics as "Topic Selection", "Basic Research", "Survey Paper", "Bibliography Development", "Footnotes", "Table of Contents" and "Development of 'Introduction'." The participants will experience the basic skills of academic writing with the method of "learning by doing."
到達目標	Each participant will write a ten-page survey paper in a specified format by the end of the semester. Each participant chooses a theme of this paper from his/her thesis topic. In addition, each participant will make an oral presentation of his/her survey paper by using slides or Powerpoint toward the end of the course.
教科書	William Strunk, Jr., "The Elements of Style" which is available at: http://www.bartleby.com/141/ Other teaching materials will be provided either in print or through the Internet.
参考書・参考資料	To be mentioned in the class.
成績評価方法	Method of Evaluation Submission of all the assignments is essential. In addition, each participant must submit a ten-page survey paper in a proper format. Each participant is expected to make a brief oral presentation of a survey paper using slides. This set of slides is to be submitted as partial requirement of this course.
履修条件	Attendance is required. If you know you will miss a class, please notify the instructor before your absence. If you cannot notify before, please report to the instructor via email, explaining the reason for your absence.
その他の注意	If you feel difficulty of any sort, please feel free to contact the instructor. Email is: matuura@nagoya-u.jp Phone is: 789-2310

講義名：近代日本政治史特殊研究(史料解釈の方法)

[講義基本情報]

教員:	増田知子
その他の教員:	
科目種別:	演習
開講時期:	前期
対象年次:	
開講時限:	月1回、月曜日3,4,5時限連続
単位数:	2
教室:	4月14日13時打ち合わせ

[講義概要]

講義概要	日本の近代化や軍国主義化の過程にあった当時の帝国議会の議事速記録のオリジナルコピーを読み解いていきます。戦前の自由や民主主義をめぐる近代の言説がいかに真つ当なものであったか、そして今もなおその意義を失っていないことを知ってもらえると思います。
到達目標	名大附属図書館中央館所蔵の帝国議会議事録を参加者で分担して解読していきます。実証研究を行う必要のある人や立法過程の研究を行う予定の人であれば、専門分野を全く問いません。日本の中央・地方の議会だけでなく、海外の議会の議事録などを調査することを予定している人も、このゼミに参加して、議会の速記録というものに少しでも慣れておくことをお勧めします。勝手のわからない文書類が目の前に積まれたとき、手探りで、何をどうしていったらよいか、とりあえず、日本で疑似体験しておくことを目的に、毎月1回、午後中、図書館に籠もって史料と格闘してください。
教科書	
参考書・参考資料	
成績評価方法	毎回の報告と最終レポートの提出を求めます。
履修条件	実証研究を行う必要のある人は、誰でも受講できます。
その他の注意	単位の有無にかかわらず、参加する人は、必ず登録してください。

講義名： 比較政治体制史研究Ⅰ (20世紀ヨーロッパにおける民主主義)

[講義基本情報]

教員:	中田瑞穂
その他の教員:	
科目種別:	演習
開講時期:	通年
対象年次:	
開講時限:	火曜日4時限
単位数:	4
教室:	文総407

[講義概要]

講義概要	<p>ヨーロッパの19、20世紀の政治史を下記の文献を講読しながら多面的に考察する。 まず、政治史の分析方法論について、やや古いながら基本文献であるAlmond/Flanagan 1973を参考に検討する。 その後、「比較政治史は可能か」という本年度のテーマについて、近年比較政治史の実証研究として評価の高い二つの研究(Ziblatt 2006, Kreuzer 2001)を取り上げ、検討する予定である。 文献については参加者と相談の上決定する。また、参加者の研究報告も適宜組み込んでいきたい。</p>
到達目標	<p>①ヨーロッパにおける民主主義について、歴史的な解釈を学び、知識と理解を深める。 ②民主主義に関するこれまでの比較政治学による分析枠組みの到達点とその限界について学ぶ</p>
教科書	<p>Gabriel A. Almond, Scott F. Flanagan, Robert J. Mundt (eds.), Crisis, Choice, and Change – Historical Studies of Political Development, Boston, 1973. Daniel Ziblatt, Structuring the State – The Formation of Italy and Germany and the Puzzle of Federalism, Princeton University Press, Princeton and Oxford, 2006. Marcus Kreuzer, Institutions and Innovation, Voters, Parties, and Interest Groups in the Consolidation of Democracy – France and Germany, 1870–1939, The University of Michigan Press, Michigan, 2001.</p>
参考書・参考資料	
成績評価方法	<p>演習における口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とし、55点以上59点までを可、60点以上79点までを良、80点以上を優とする。</p>
履修条件	
その他の注意	

講義名：現代政治理論研究(現代政治学の諸理論)

[講義基本情報]

教員:	田村哲樹
その他の教員:	
科目種別:	演習
開講時期:	通年隔週
対象年次:	
開講時限:	木曜日3時限、木曜日4時限(隔週)
単位数:	4
教室:	ゼミ棟23

[講義概要]

講義概要	政治学における経験的および規範的理論に関する日本語または英語の文献を検討する。本年度はまず政治学の理論と方法に関する英語文献の講読から始めたいと考えている。詳細は、年度初めに、参加者とも相談しながら決める。また、参加者の研究報告も、適宜組み込みたい。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 政治学の現在の理論状況について、一定の理解を得ることができるようになる。 自らの研究課題を、政治学の理論動向の中に位置づけることができるようになる。 自らの日頃の研究成果を演習にフィードバックできるようになる。
教科書	<p>テキスト候補としては下記のようなものが考えられるが、あくまで「候補」であり、最終的には年度初めに決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> David Marsh and Gerry Stoker(eds.), Theory and Methods in Political Science, 2nd ed., Palgrave, 2002. Peter Burnham et al., Research Methods in Politics, Palgrave, 2004. Colin Hay, Michael Lister and David Marsh (eds.), The State: Theories and Issues, Palgrave, 2006.
参考書・参考資料	
成績評価方法	報告と出席状況によって評価する。
履修条件	とくになし。
その他の注意	年度始めに、打ち合わせを行うので、履修を考えている院生は出席のこと。打ち合わせの時間や場所などについては、掲示等により連絡する予定である。

**COMPARATIVE STUDIES IN
講義名: JURISPRUDENCE
(The Law and its Personnel)**

[講義基本情報]

教員:	Yasutomo MORIGIWA
その他の教員:	
科目種別:	Lecture
開講時期:	1st semester
対象年次:	M1&M2
開講時限:	Fri 3
単位数:	2
教室:	

[講義概要]

講義概要	What is the most difficult aspect of setting up a legal system? Legislation, funding, or the provision of facilities? Each of these stages does have its own problems, but the training of personnel probably presents the greatest hurdle. Technical, legal and moral competence is required for those who man and run the legal system. How can legal education provide such qualities in its trainees? Discussion and interviews are conducted on this question following intensive reading of literature on the subject.
到達目標	
教科書	
参考書・参考資料	
成績評価方法	
履修条件	
その他の注意	

SPECIAL LECTURE AND SEMINAR

講義名：(Legal and Business Ethics in Developing Countries)

[講義基本情報]

教員:	Yasutomo MORIGIWA
その他の教員:	
科目種別:	Lecture
開講時期:	2nd
対象年次:	M1 & M2
開講時限:	Fri 3
単位数:	2
教室:	

[講義概要]

講義概要	<p>This seminar will combine the theory of legal and business ethics with the practicalities of developing nations. Students will wrestle with questions such as how one can be ethical when working in a system that has corruption. The course will draw upon theory and will ask students to address scenarios based on their practical knowledge. We hope to have outside participation from practitioners and experts. The course will be taught in English and Japanese as appropriate. Students will give oral presentation of assigned topics during the course and refine the presentation draft into a short research paper as the final exercise for the course. International and Japanese students are invited to attend.</p>
到達目標	<p>Better understanding of the social responsibilities of the legal profession.</p> <p>Better appreciation of the functions of the public sector and the role of public administration and the judiciary.</p> <p>Based on theoretical understanding of the situation and practice through role-playing, skill in dealing with difficult moral situations.</p>
教科書	
参考書・参考資料	Material either in the form of master copy or on the dedicated web site to be announced.
成績評価方法	<p>1) participation 50%</p> <p>attendance, assignments and active performance in class in the weekly online forums</p> <p>2) research paper 50%</p>
履修条件	
その他の注意	Active participation expected in monthly in-depth role play client counseling sessions with "real" clients played by professional actors, as well as online discussions at the dedicated website.

经济学研究科

Graduate School of Economics

講義名：課題設定型講義（地域金融システム）

[講義基本情報]

教員:	家森信善
その他の教員:	
科目種別:	講義
開講時期:	第1学期
対象年次:	
開講時限:	木曜日3時限
単位数:	2
教室:	第3講義室

[講義概要]

講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 金融システムの役割 2. バブル崩壊後の日本の金融システム 3. 金融において地域を問題にする意味 4. 東海地域の金融システム:名古屋金利を考える 5. アンケート調査に基づく東海地域の金融システムの特徴(関西との比較) 6. 地域金融に関する政策対応の変遷 7. リレーションシップバンキングの理論的背景 8. リレーションシップバンキングの研究動向 9. リレーションシップバンキング機能は強化されたか 10. 協同組織金融機関の意義と課題 11. リレーションシップバンキングに関する研究の紹介1 12. リレーションシップバンキングに関する研究の紹介2 13. リレーションシップバンキングに関する研究の紹介3 14. リレーションシップバンキングに関する研究の紹介4 15. 地域金融システム改革の課題
到達目標	<p>地域金融システム問題に焦点を絞って講義を行う。具体的には、最近の研究動向、金融システム政策や地域金融機関経営の現状と課題について検討する。なお、本講義は、東濃信用金庫からの支援・協力によって開講されている。</p>
教科書	<p>筒井義郎・植村修一『リレーションシップバンキングと地域金融』（日本経済新聞社 2007年5月）。その他、講義中に指示する。</p>
参考書・参考資料	<p>筒井義郎・植村修一『リレーションシップバンキングと地域金融』（日本経済新聞社 2007年5月）。その他、講義中に指示する。</p>
成績評価方法	<p>講義への出席状況（プレゼンテーションの内容を含む）および、期末のレポートに基づく。</p>
履修条件	<p>教員による講義とともに、受講者にも論文紹介報告を求める。また8月28日29日に名古屋大学で地域金融のコンファレンスを開催する予定で、それへの出席が履修条件である。講義スケジュールの詳細については、第一回目の講義時に説明するので、必ず出席してほしい。</p>
その他の注意	<p>【予備学習の指示】 テキストはもちろんであるが、あらかじめ論文を指定する場合には、それを読んでおくこと。</p>

講義名：課題設定型講義(地方財政)

[講義基本情報]

教員:	小川 光
その他の教員:	
科目種別:	講義
開講時期:	第1学期
対象年次:	
開講時限:	火曜日3時限
単位数:	2
教室:	第3講義室

[講義概要]

講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 財政競争理論の背景 3. 基本モデル 4. 地域規模の影響 5. 集積と地域の非同質性 6. 政策手段の選択 7. 人口移動 8. 市場の不完全性 9. 不確実性と情報の非対称性 10. スピルオーバー 11. 垂直的外部性 12. 政策決定プロセス 13. 政府間移転 14. 地域間協調 15. まとめ
到達目標	財政競争(fiscal competition)に関する一連の研究を概観することによって、地方財政部門の果たす役割と限界について明らかにする。既存研究に関する議論の中から、受講者自らのオリジナルな論文が生まれることを希望している。
教科書	『フィナンシャルレビュー(財務省)』第82号(2006)「政府間関係の経済分析」特集号に掲載されている松本睦「政府間税競争の理論」と小川光「地方政府間の政策競争」の論文にあるreference。
参考書・参考資料	『フィナンシャルレビュー(財務省)』第82号(2006)「政府間関係の経済分析」特集号に掲載されている松本睦「政府間税競争の理論」と小川光「地方政府間の政策競争」の論文にあるreference。
成績評価方法	講義への参加状況とレポート課題
履修条件	この講義では、ミクロ経済理論を主たる分析アプローチとしているので、ミクロ経済理論に関する知識を有すること。
その他の注意	【予備学習の指示】 取り上げる研究については、この分野の邦文サーベイ論文である下記論文を参照のこと。

講義名： 課題設定型講義 (TPSに基づく全体最適経営システムの再構築)

[講義基本情報]

教員:	高桑 宗右工門
その他の教員:	
科目種別:	講義
開講時期:	第2学期
対象年次:	
開講時限:	集中講義
単位数:	2
教室:	未定(後日掲示します)

[講義概要]

講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営システム再設計を成功させる3要素:「志」、「俯瞰」、「深耕」 2. ものづくり経営システムのパラダイムシフト 3. 中国における外資企業、民営企業及び国有企業の経営システム分析と対比 4. 全体最適システムデザインのプロトタイプ 5. TPSモードと非TPSモードの根本的な違い 6. システム・リ・デザインの場所特性と手法特性:その1 7. システム・リ・デザインの場所特性と手法特性:その2 8. システム・リ・デザインの流れとプロセス管理:その1 9. システム・リ・デザインの流れとプロセス管理:その2 10. 製品戦略領域のシステム再設計 11. 現場力と改善力のシステム再設計 12. 日常管理、機能別管理、方針管理の統合 13. 全体最適経営システムの評価 14. 中国における全体最適経営システム再構築の実践:その1 15. 中国における全体最適経営システム再構築の実践:その2
到達目標	<p>21世紀のグローバル競争の中で、製造企業における経営システム再設計の重要性と必要性を理解する。トヨタ生産方式(TPS)は競争力が高い全体最適経営システムの代表格として、その考え方は経営システム再設計に対して重要な役割を果たしている。TPSに基づく全体最適経営システムの再構築要素を分析し、再設計の方法や手順を把握する。国際経済政策研究センターの客員教授である牛占文教授(天津大学管理学院)と共同で開講する。</p>
教科書	その都度、紹介する。
参考書・参考資料	その都度、紹介する。
成績評価方法	出席、レポート、試験を総合して評価する。
履修条件	学部レベルの「生産管理」の知識を前提とする。
その他の注意	【予備学習の指示】 適宜、指示する。

講義名：課題設定型講義(エネルギー・環境の経済分析)

[講義基本情報]

教員:	山本 芳弘
その他の教員:	
科目種別:	講義
開講時期:	第2学期
対象年次:	
開講時限:	木曜日6時限
単位数:	2
教室:	演習室5

[講義概要]

講義概要	<ol style="list-style-type: none">1. 環境と経済学2. 公共財・外部性3. 環境税のメカニズム4. 排出量取引のメカニズム5. 所有権とコースの定理6. 環境問題における交渉7. 非対称情報下での環境規制8. 費用便益分析の方法9. エネルギー・環境問題への経済学的アプローチの実際10. 地球温暖化対策11. 省エネルギー施策12. 再生可能エネルギー利用施策13. エネルギー問題・エネルギー産業14. エネルギー・環境技術の研究開発15. エネルギー・環境にかかわる消費者行動
到達目標	エネルギー・環境にかかわる諸問題について、経済学的観点からの理論と実際を習得する
教科書	都度指示する
参考書・参考資料	都度指示する
成績評価方法	課題報告、授業貢献度、出席状況に基づく
履修条件	特になし
その他の注意	【予備学習の指示】 学部レベルのマイクロ経済学の復習

國際言語文化
研究科

*Graduate School of
Languages and Cultures*

講義名：現代ジャーナリズム論a

[講義基本情報]

教員:	春名 幹男
その他の教員:	-
科目種別:	講義
開講時期:	前期
対象年次:	全学年
開講時限:	水曜日3時限
単位数:	2
教室:	国言棟2階B演習室

[講義概要]

講義概要	<p>日本および各国のジャーナリズムは今、危機に立たされている。揺らぐマスメディアの組織と形態、情報操作や世論操作の実態、政治報道の問題点、記者クラブ制度、メディアスクラム、記者の任務、といった問題の実態を解剖する。ジャーナリズムの歴史を振り返り、インターネットの登場でメディアが経済的、倫理的に揺らぐ現状も探る。</p> <p>次のようなテーマについて、ジャーナリズムの現状にメスを入れる。民主主義の実現に不可欠なジャーナリズムの実態に迫る授業にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 報道機関の組織 * メディアの経済学 * メディアの攻防、インターネットの攻勢 * 日本のジャーナリストはプロフェッショナルか * 記者クラブ制度の光と陰 * メディアスクラムの問題 * 政治報道の実態 * 調査報道とは何か * 戦争とメディア * ナショナリズムとメディア
到達目標	現代におけるジャーナリズムの危機的状況について、深く理解できるようにする。
教科書	使用しない。適宜、私家版の資料を配布する。
参考書・参考資料	<p>原寿雄『ジャーナリズムの思想』(岩波新書、1997年) 鎌田慧『反骨のジャーナリスト』(岩波新書、2002年) 中馬清福『新聞は生き残れるか』(岩波新書、2003年) 大塚将司『スクープ』(文春新書、2004年) 田中良紹『メディア裏支配』(講談社、2005年) 大塚将司『日経新聞の黒い霧』(講談社、2005年) 梓沢和幸『報道被害』(岩波新書、2007年) 河内孝『新聞社』(新潮新書、2007年)</p>
成績評価方法	主としてレポートの提出で評価する。 授業の出席、態度等も加味する。
履修条件	特になし
その他の注意	日ごろから新聞、テレビの報道を注意して観察する。

講義名：現代ジャーナリズム論b

[講義基本情報]

教員:	春名 幹男
その他の教員:	
科目種別:	講義
開講時期:	後期
対象年次:	全学年
開講時限:	水曜日3時限
単位数:	2
教室:	国言棟2階B演習室

[講義概要]

講義概要	<p>日本および各国のジャーナリズムは今、危機に立たされている。揺らぐマスメディアの組織と形態、情報操作や世論操作の実態、政治報道の問題点、記者クラブ制度、メディアスクラム、記者の任務、といった問題の実態を解剖する。ジャーナリズムの歴史を振り返り、インターネットの登場でメディアが経済的、倫理的に揺らぐ現状も探る。</p> <p>次のようなテーマについて、ジャーナリズムの現状にメスを入れる。民主主義の実現に不可欠なジャーナリズムの実態に迫る授業にする。</p> <p>前期「現代ジャーナリズム論a」の学習をより深めた内容にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> * ジャーナリズムのアカウントビリティ * 取材源の秘匿 * 機密漏洩 * 記者の責任 * 戦争とメディア * ナショナリズムとメディア * 情報操作と報道 * 調査報道とは何か * 特ダネと権力の陥穽
到達目標	現代におけるジャーナリズムの危機的状況について、一層深く理解できるようにする。
教科書	使用しない。適宜、私家版の資料を配布する。
参考書・参考資料	<p>原寿雄『ジャーナリズムの思想』(岩波新書、1997年)</p> <p>鎌田慧『反骨のジャーナリスト』(岩波新書、2002年)</p> <p>中馬清福『新聞は生き残れるか』(岩波新書、2003年)</p> <p>大塚将司『スクープ』(文春新書、2004年)</p> <p>田中良紹『メディア裏支配』(講談社、2005年)</p> <p>大塚将司『日経新聞の黒い霧』(講談社、2005年)</p> <p>梓沢和幸『報道被害』(岩波新書、2007年)</p> <p>河内孝『新聞社』(新潮新書、2007年)</p>
成績評価方法	主としてレポートの提出で評価する。 授業の出席、態度等も加味する。
履修条件	「現代ジャーナリズム論a」を履修することが望ましい。
その他の注意	日ごろから新聞、テレビの報道を注意して観察し、批判的精神を養うこと。

講義名：新聞現場論a

[講義基本情報]

教員:	田島 暁
その他の教員:	
科目種別:	演習
開講時期:	前期
対象年次:	主にM1
開講時限:	火曜日4時限
単位数:	2
教室:	国言棟2階B演習室

[講義概要]

講義概要	新聞人の経験に立ち、生きた新聞論、現場の姿を語る。中日新聞の全容を伝え、文章論、記事制作法、連載や特集のコンテンツ指導など多岐に講じる。
到達目標	最も信頼されるメディアであり続ける新聞。その力と役割を再認識させ、新聞の直面する諸課題、対策を学ぶ。取材報道の手法、記者活動の魅力を語り、マスコミを志す意欲と力量を育てる。
教科書	特になし
参考書・参考資料	原寿雄『ジャーナリズムの思想』(岩波新書)天野勝文ほか『新版 現場からみた新聞学』(学文社)
成績評価方法	随時多数回に及ぶ記事制作などの演習を通して総合評価する。
履修条件	
その他の注意	

講義名：新聞現場論b

[講義基本情報]

教員:	田島 暁
その他の教員:	
科目種別:	演習
開講時期:	後期
対象年次:	主にM1
開講時限:	火曜日4時限
単位数:	2
教室:	国言棟2階B演習室

[講義概要]

講義概要	新聞人の経験に立ち、生きた新聞論、現場の姿を語る。中日新聞の全容を伝え、文章論、記事制作法、連載や特集のコンテンツ指導など多岐に講じる。
到達目標	最も信頼されるメディアであり続ける新聞。その力と役割を再認識させ、新聞の直面する諸課題、対策を学ぶ。取材報道の手法、記者活動の魅力を語り、マスコミを志す意欲と力量を育てる。
教科書	特になし
参考書・参考資料	原寿雄『ジャーナリズムの思想』(岩波新書)天野勝文ほか『新版 現場からみた新聞学』(学文社)
成績評価方法	随時多数回に及ぶ記事制作などの演習を通して総合評価する。
履修条件	
その他の注意	

講義名：メディアテクノロジー論

[講義基本情報]

教員:	川嶋 典士
その他の教員:	
科目種別:	講義
開講時期:	前期
対象年次:	M1・M2
開講時限:	木曜日2時限
単位数:	2
教室:	ラウンジ国言棟1階

[講義概要]

講義概要	インターネットに代表される新たな情報伝達の手段が次々に登場し、それらは相互に影響を及ぼしあいながら成長している。新聞発行現場においても「他メディア」から「多メディア」への対応と視点が変貌しつつある。多メディア複合の環境下で「信頼されるメディア」として備えなければならない機能、求められる機能について考察し技術的な視点から問題点を検討していく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞(アナログメディア)製作の工程を理解する。 ・ デジタル環境で安全な情報公開・受信ができる。
教科書	教科書は使用しない。
参考書・参考資料	インターネット上の事象を参考にします。
成績評価方法	授業出席態度とレポート評価による
履修条件	
その他の注意	

講義名：デジタルメディア論

[講義基本情報]

教員:	水野 雅夫
その他の教員:	
科目種別:	講義
開講時期:	後期
対象年次:	M1・M2
開講時限:	水曜日4時限
単位数:	2
教室:	ラウンジ国言棟1階

[講義概要]

講義概要	デジタル技術の進歩により、マスメディアの世界は革命的变化を遂げつつある。①グローバル化②双方向化③個別化④即時化——などの要素を伴って激変の最中にある現在のメディア変化の本質を講師の取材体験と生のニュース素材を通じて理解する。日々のニュースに即した具体的な講義内容が特徴です。
到達目標	メディア論の通説と現実のメディア報道の比較を通じて、メディアと現実社会の本質に迫りうる立体的な視点を養う。
教科書	パワーポイントによる講師の手作り教材を使用
参考書・参考資料	○「日本 権力構造の謎」〈上、下〉カレル・ヴァン ウォルフレン著（ハヤカワ文庫） ○「ウェブ進化論」梅田望夫著（ちくま新書） ○「マス・コミュニケーションの理論」マクウェール著（新曜社）
成績評価方法	レポート(随時)
履修条件	
その他の注意	

講義名：放送メディア史論

[講義基本情報]

教員:	長縄 年延
その他の教員:	
科目種別:	講義
開講時期:	前期
対象年次:	M1・M2
開講時限:	水曜日5時限
単位数:	2
教室:	ラウンジ国言棟1階

[講義概要]

講義概要	人類の進化とメディアの発達はどうかかわってきたのか。メディアの歴史を概観するとともに、放送メディアの歴史を中心に時代時代において果たしてきた役割を検証する。
到達目標	メディアの発達の歴史と、現代史とメディアのかかわりについて学ぶ。
教科書	「20世紀放送史」(上巻、下巻、年表)日本放送協会編
参考書・参考資料	
成績評価方法	講義出席状況、年表作成、レポート作成、
履修条件	
その他の注意	

講義名：テレビ報道論

[講義基本情報]

教員:	中森督義
その他の教員:	近藤彰、小嶋富男
科目種別:	演習
開講時期:	前期
対象年次:	M1・M2
開講時限:	火曜日6時限
単位数:	2
教室:	国言棟2階B演習室

[講義概要]

講義概要	テレビ報道の歴史・現状・課題を考察する。取材、制作、アナウンス、インタビューなどの実践を通してテレビ報道の特性を知る。
到達目標	テレビにおける「現場主義」「当事者主義」、ジャーナリストとして「洞察力」「情報収集力」「表現力」の重要性の認識を深める。
教科書	
参考書・参考資料	NHKのニュース・番組VTRを適宜使用。
成績評価方法	授業での発言、演習での実績
履修条件	
その他の注意	受講希望者は、初回必ず出席のこと。 毎日一回はテレビニュースを視聴すること。

講義名：広告戦略論a

[講義基本情報]

教員:	金川 昇平
その他の教員:	電通社員および外部専門企画会社社員
科目種別:	講義
開講時期:	前期
対象年次:	修士1年生
開講時限:	木曜日4時限
単位数:	2
教室:	国言棟2階B演習室

[講義概要]

講義概要	広告戦略のプランニングに必要な基礎知識 チーム作業の流れ、コンセプト策定、キャンペーン計画立案演習など
到達目標	広告コミュニケーションへの高い興味と理解力の涵養。キャンペーン立案やアイデア発想・作成への意欲の高さと構想力の涵養。
教科書	基本は講師作成のパワーポイントによる独自のテキスト(各種広告作品や受賞作品の鑑賞を含む)
参考書・参考資料	「新しい広告」(電通発行)など
成績評価方法	個人的な「私の好きな広告」発表 受講実績と受講態度 チームでのキャンペーン案制作とプレゼンテーション
履修条件	日本語の理解力、広告への興味
その他の注意	

講義名： 広告戦略論b

[講義基本情報]

教員:	金川 昇平
その他の教員:	電通社員および外部専門企画会社社員
科目種別:	講義
開講時期:	後期
対象年次:	修士1年生
開講時限:	木曜日4時限
単位数:	2
教室:	国言棟2階B演習室

[講義概要]

講義概要	広告戦略のプランニングに必要な基礎知識 チーム作業の流れ、コンセプト策定、キャンペーン計画立案演習など
到達目標	広告コミュニケーションへの高い興味と理解力の涵養。キャンペーン立案やアイデア発想・作成への意欲の高さと構想力の涵養。
教科書	基本は講師作成のパワーポイントによる独自のテキスト(各種広告作品や受賞作品の鑑賞を含む)
参考書・参考資料	「新しい広告」(電通発行)など
成績評価方法	個人的な「私の好きな広告」発表 受講実績と受講態度 チームでのキャンペーン案制作とプレゼンテーション
履修条件	日本語の理解力、広告への興味
その他の注意	

講義名：民間放送事業論

[講義基本情報]

教員:	木村 誠良
その他の教員:	坪井 清人 ほか
科目種別:	演習
開講時期:	前期
対象年次:	M1・M2
開講時限:	月曜日6時限
単位数:	2
教室:	国言棟2階B演習室

[講義概要]

講義概要	情報のデジタル化が進行する中で民間放送がそれをビジネスチャンスととらえて自らを変えていくための方策を、民間放送がどのような時代的環境の中で始まり発展してきたかを視圈におさめつつ、現場に立脚した形で論じる。
到達目標	現在の民間放送事業を取り巻く状況を認識するとともに、学生の視点による問題点を洗い出す。
教科書	授業内で個別に指示する。
参考書・参考資料	授業内で個別に指示する。
成績評価方法	レポート
履修条件	特になし。
その他の注意	特になし。